



WWF、南極大陸で新種、ナンキョクグマを発見！

＊ご注意：エイプリル・フール記事としての発信です

2017年4月1日、WWF（世界自然保護基金）は、南極大陸に生息する新種のクマを発見したと発表しました。これは2016年9月にWWFジャパンが支援する、南極海周辺での科学調査により確認されたものです。



▲今回発見されたナンキョクグマ（フィクションです）

発見につながる最初のきっかけは、海上で採集された不可思議なペンギンの死骸でした。調査隊を率いていたトミー・ワタナベ隊長は、次のように語っています。「調査海域で私たちが見つけたのは、何かの肉食獣に襲われたらしいアデリーペンギンの死骸でした。最初、私たちはこれをヒョウアザラシの仕業かと思ったのです」

しかし、二日後、調査隊は近くの海域で思わぬものを発見しました。「それは、同じ肉食獣に襲われたと思われる、ヒョウアザラシの死骸でした」

南極大陸沿岸に生息し、最大で3メートルを超えることもある、獰猛なヒョウアザラシを襲う動物はそうそういません。唯一考えられるのは鯨類のシャチですが、死骸にのこされた傷跡、特に噛み跡と、爪によると思われる傷は、明らかにシャチのものではありませんでした。

そこで調査隊は、事務局長の帰還命令を押し切って発見海域を中心に探査を続行。その結果、4日目の朝に、海を泳ぐ大型の動物を発見したのです。

「最初は分かりませんでしたが、それは明らかにホッキョクグマによく似た動物でした。泳ぎはとても巧みで、我々が近づくと海中に潜り姿を消しました」調査隊はその後、遠方の氷上にいるこの動物の撮影に成功。さらにその場所に残された毛も採集することができました。

DNA調査の結果、分類学的には南米に生息するメガネグマ（南半球で知られる唯一のクマ）に近いらしいということが判りましたが、ホッキョクグマと似た生態、特徴も持つと思われ、同様の生息環境下で異なる生物が似た進化を遂げる「収斂進化」の一例としても注目されます。

この世界を驚かせた発見について、WWFジャパン自然保護室長の東梅貞義は、次のように言っています。

「海中でペンギンやアザラシを獲るほどの能力を持つと思われる、ナンキョクグマの生態は、まだ謎に包まれており、どれくらいの数が生息しているかも不明です。しかし、目撃例や報告の少なさから、生息域はきわめて限られていると考えられます。

そうした中で、今年、南極大陸では過去に例を見ない規模での氷の減少が報告されました。これが気候変動（地球温暖化）による影響なのか、関係性ははまだ科学的に明らかにされていませんが、地球全体で現在、異常気象の発生が認められていることは確かです。

北極での海氷の減少がホッキョクグマを追いつめているように、南極での環境変化がこの新発見のナンキョクグマを、同じく危機に追いやっている可能性は、十分に考えられます。

また、こうした環境の変化が、これまで南極の海で人に知られず生きてきたこの動物を、私たちの目の前に押し出すことになったのかもしれない。

今、「パリ協定」の合意により、国際社会が明らかに示した温暖化の脅威の無い未来に向けた強い意思が、一部の大国の後ろ向きな政策転換によって、妨害されようとしています。

しかし、今回の発見が物語る通り、自然界にはまだ私たちの知らないことが数多くあります。そうである以上、私たち人類はもっと謙虚に、そして真摯に、地球という星の未来を考えねばならないはずで

今回のナンキョクグマの発見を通じて、今一度、私たちはそのメッセージを、世界の国々とホワイトハウスに訴えたいと思います」

※4月1日は、エイプリルフールです。

■関連情報

- WWFインターナショナル 声明（2017年3月29日）

トランプ大統領令はアメリカの温暖化対策を後退させる

<http://www.wwf.or.jp/activities/2017/03/1362429.html>

- 「脱炭素社会」に向けた長期シナリオ

http://www.wwf.or.jp/activities/climate/cat1277/wwf_re100/#energyscenario2017

★報道関係者からのお問合せ・ご取材のお申込み

• WWFジャパンプレス担当 Tel: 03-3769-1714 Email: press@wwf.or.jp URL: <https://www.wwf.or.jp>